

船舶事故等調査報告書

平成26年6月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014横第21号
事故等種類	座洲
発生日時	平成26年2月25日 08時44分ごろ
発生場所	静岡県清水港第3区 静岡県静岡市所在の清水真埼灯台から真方位303°130m付近 (概位 北緯35°01.28' 東経138°30.90')
事故等調査の経過	平成26年2月28日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	漁船 第三千 ^{せんしゅう} 秋丸、466トン
船舶番号、船舶所有者等	133095、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	なし
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか5人が乗り組み、船首約0.6m、船尾約4.0mの喫水により、船長が、操舵室の椅子に腰を掛けて手動操舵を行い、速力を約2ノットとして清水港第3区を造船所へ向け、南西進中、平成26年2月25日08時44分ごろ、清水真埼灯台から真方位303°130m付近の浅所において、船尾付近が乗り揚げた。</p> <p>船長は、船体に衝撃を感じなかったが、主機を前進側へ使用しても前進推力が得られないことから、本船が乗り揚げたことを知った。</p> <p>船長は、直ちに主機を使用して離礁しようとしたが、推進器で生じた水流が海底の砂を巻き上げ、主機の冷却海水系統が砂を吸い込んで故障する虞があると思い、引船が造船所沖で待機していたので、造船所を介して救助を依頼した。</p> <p>本船は、来援した引船によって離礁し、造船所の係留場所にえい航された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北、風速 約2.7m/s、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 低潮時、潮高 約92cm</p>
その他の事項	<p>船長は、本インシデントが発生した付近を何度も航行した経験があり、浅所が存在することを知っていた。</p> <p>本船は、レーダー、GPSプロッター、ジャイロコンパス、魚群探知機等を備えていたが、本インシデント当時、レーダー以外の機器は電源が断となっており、船長が経験と勘で操船していた。</p> <p>船長は、目測で静岡市真埼との離岸距離が約100mあり、浅所に乗り揚げることはないと考えていた。</p>

<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし</p> <p>本船は、清水港第3区を南西進中、船長が、真埼との離岸距離を目測して航行していたことから、浅所に接近していることに気付かず、船尾が真埼沖の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本インシデントは、本船が、清水港第3区を南西進中、船長が、真埼との離岸距離を目測して航行していたため、浅所に接近していることに気付かず、船尾が真埼沖の浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅所付近を航行する場合は、航海計器を活用して船位確認を行うこと。